

♪「New Ensemble Accorde Concert」 ぶらり訪問記 ♪

2009年6月27日(土)14:30 開演
会 場 ルーテル市ヶ谷センター
JR、新宿線、メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷駅」
出演者：稲葉由理子 / 園山三左子
齋藤みどり / 秋澤加寿子
足立カヨ子
ゲスト：柴崎和圭(アコーディオニスト)
入場料：2,000円(全席自由)

(写真はアンコールも終わり笑顔でのあいさつ)



前半は自然のさわやかさと彩り

■一人1パートでアコーディオンのみの五重奏でした。全体を通してベースアコの存在感が曲の厚みを作り出していたし、丁寧な演奏が全体を引き締めていたように思いました。

■1曲目は『朝七時』、自然のさわやかさと彩を集めてみました。とは演奏者からのコメントです。日が差し込んでくる、小鳥のさえずり、目がさめる、確かにそんな感じのする曲でした。

■2つ目は『チクタク』『2つそして2つ』『フォークダンス』、三曲ともハーモニカ演奏者でもあるドイツの作曲家が、ハーモニカアンサンブルの為に書かれた曲をアコーディオン重奏用に編曲したものだそうです。

■三つ目は『ユーモレスク 春/夏/秋/冬』、この曲は1928年生まれの子のチェコの作曲家が後にアコーディオンにも関心を持ち始め、1984年にアコーディオンオーケストラ用として作曲された有名な曲です、とプログラムに書かれています。今日のコンサートは、聴きに来なければ知らないままですごしてしまう曲の構成です。自分の知っている曲がいかに少ないか、日頃曲を聴いていないかが分かってしまいます。演奏は音の膨らませ方、柔らかい音がしっかり出ていて爽やかな音色でした。



■ゲスト演奏は柴崎和圭氏の日本古謡『さくら』他「さくら」では音が右から聴こえて来るのか左から聴こえてくるのか、雅楽のような不思議な音色の種明かしをされました。フリーベースのなせる業で、鍵盤とフリーベースボタンを交互に押すときの使い方なのだそうです。



昆虫が獲物を捕食するときのような‘シュツ’とした動き、そして捕まえたなら離さない、それでいて取りモチのようにねっとりしている。柔らかいようで硬い不思議な指の動きです。

~~~~休憩~~~~

■後半は『アラカルト-ワルツ ミュゼット』、『ワルツ(映画「他人の顔」より)』、『イスラエル組曲』1、ヨッシのうた 2、あなたと私 3、水。『インテルヴァッロ』、この中で知っている曲はフォークダンスでお馴染みの「マイム」水だけでした。

林光作曲の『インテルヴァッロ』は、昔話のように子どもにでも話しかけているような、会話をしているようにも聴こえて印象に残りました。

■アコーディオンのための創作曲ってほんとに少ないと思う。今日のプログラムのようにどちらか

というと地味な曲ですが、意欲的に取り組む姿勢は大事にして欲しいなと思います。

(文：乙津)

左の写真は演奏風景